

### 4-3 ウエペケレ「キムンカムイ カネ アワンキ イエルサ」

#### 解説

語り手：貝澤とうるしの

聞き手・解説：萱野茂

萱野：kimun kamuy kane awanki i=erusa [熊神が鉄の扇を私に貸した] ちゆう uepeker [散文説話] だな。これはな。

貝澤：そう、そうだな。

萱野：わたくしは1人の aynu [アイヌ] でありました。

えー、この aynu の uepeker というのは、いつでも sino nispa a=ne hine oka=an pe ne a hike [私は本当に裕福な者として暮らしていたのですが] というふうに始まるんですが、あー、御多分に洩れず、わたくしも非常にその金持ちのいい、いい aynu であったと。

である日のこと山へ行ったら、いつも沢山、熊は獲れるんですけども、いつもにもまして、形の上からも非常にその、いい熊を獲ることが出来て喜んでそれを家へ持って帰って、父の aynu と2人で丁寧に沢山の inaw [イナウ] を作り沢山のおみやげを作って、神の国へお返しする、いわゆるお祭りをした。

そして神の国へ帰した夜、夢を見たら立派な神様が夢枕に立って「これ aynu と、あんたは非常に精神のいい aynu なので、今日はあなたのところへわたくしはお客として来ましたよ。けれども、あなたの村にちょっとその気がかりな心配があるんですと、それというのは悪い、恐ろしい熊が2頭であの、aynu の村を食い荒らそうとして明日、出かけて来るのがわたしは分かっていると、だからそうして熊が来てはいかんの、わたくしは、あなたを助けようとして今日はお客として来たんです。それというの、この熊は、手を出して助けるというわけにいかないので、明日あなたが山へ行く時にいつも休むあのナラの木の下へ寄ってみて下さいと。そこで、わたくしはあなたに貸すその、アイヌ語でこう、お守りのことを mampuri [お守り] という言葉で言っていますが、そのお守り、という言葉が訛ったんで、訛ったんだと思いますが、その mampuri を置いておくと、それというのは、扇なんだと、アイヌ

語で、アイ……ま、アイヌ的な発音すると **kane awanki** [金属の扇] というふうに言っておりますが、

貝澤：うちわの話だ。

萱野：その扇を持ってそこへ置いておくと、その扇の片面には、**menis noka** [凍雲の模様] いわゆる寒さを……の絵を描いてある。もう一方には太陽の絵を描いてあると、したがってその寒い方を扇ぐと、たちまちその辺一面は氷になるし、暑いほうは、暑……で扇ぐと、たちまちその辺は暑くなる、というふうに出ているから、それを持って明日、来るその2人連れの悪い神様を待ちなさいと。それはあの2人連れで来たら、すぐにもう山の方へ出かけ……山の方から出かけて来るから迎えうつようにしてその扇を持って木の陰なんかで待っていなさいよと。それは神様である私がするので決してあなたは、その悪い神様から見られることはありませんから。だから、私の言うようにしなさいと。

そして、まず最初にその暑い方の面で扇ぐと、その者たちは早速その、裸になって、そして今まで湖もなかったところに急にその湖が出る……出来るからそこへ奴ら2人が入って泳ぎ始めると。そうしたらその時にはその泳ぐ……泳ぎ始めた、その湖の真ん中頃まで泳いで行ったら、いわゆる寒い方の面で扇ぎなさいと。そうするとたちまちにして湖は凍るでしょうと。そういうことによって、その悪者どもは凍ってしまいますよ」と。そのように神様が夢でお告げをしてくれた。

わたくしは夜明けとともに支度をしてさっそく言われたいつも休むその太いナラの木の側まで出かけて行った。そこには綺麗な、くさつ……包みの中で、その銀の扇が入っておったと。その一方は、いわゆる暑さの方のもの、一方は寒さの方の絵を描いてあるので、それでそれを持ってまず山の方へ出かけて行った。

そうしたら夕べに夢に見た神様のお告げの通り、**aynu** といっても **aynu** らしくもない、まあ一応、人間の形はしておるけれども恐ろしい化け物のような2人の人間がやって来たと。だから神様に言われた通り、いわゆるその **sukus noka** [日ざしの模様]、こう太陽の方の絵の付いた方で扇ぐとゆっくりゆっくり扇いでいると、もうその2人連れはもう「暑い暑い」と言い始まった。

そしたら目の前に湖があるので、湖のへりに、まかない [身に着けているもの] を解いておいて、そして泳ぎに入ってしまった。途中まで泳いで行ったところに、こちらからこう、まだ (また) 寒い方のあれでやる

と、たちまち湖は凍って2人がその湖の真ん中ごろで凍りついてしまった。

そして弟神の言うのには「それ見たかと。兄よと。こんなことして誘ってくれなければ、こうして来て **aynu** のところへ来て悪さをしようとしたおかげでこんなふうに湖で凍りついちゃうのに本当に残念なことだ」と言いながらそこで凍りついてしまった。

それを見ながらわたくしは家へ帰って来て父に報告をし「このようにして悪い2人を退治して来ましたよ」と言いながらその神様からお借りした扇とか、そうした物は次の日に **inaw** [イナウ] をたくさん付けて、その **inawcipa** [幣場] という外の祭壇のところへ掛けておいた。

そしたら神様のおっしゃったとおりに神様はそこへ取りに来て持って行ったらしく、そこではありませんでしたが、おかげで村は何事も無く救われましたと、だから精神良くしておくで精神のいい人間、精神のいい **aynu** には常に神様が守って、そういう恐ろしいことも未然に防ぐことが出来ましたよ。これからの **aynu** たちも常に行いを正しく精神をまともに持つことによっていつまで平和で暮らすことが出来ましょうよ。

と1人の **aynu** が言って死にました。

よく聞いたかい？

貝澤：よく聞いたか！ 聞いたよ、言ったべし。

萱野：**ikonpap** [芋虫] (?)

貝澤：**upopotata** (イムという驚いた時の発声か)